

平成 25 年度

湯梨浜町教育行政の点検及び評価

平成 26 年 6 月

湯梨浜町教育委員会

目 次

は じ め に

· · · · · P 2

平成25年度湯梨浜町教育委員会点検・評価の一覧

· · · · · P 3

教育委員会議及び教育委員の活動

· · · · · P 40

はじめに

教育委員会の事務の点検・評価制度の導入について

湯梨浜町教育委員会は、まちづくりのテーマである『げんき・いきいき・かがやきのまちづくり』を目指して、基本理念である「次代を担う 心豊かな 人づくり」の実現に向けて、住民を主役とした生涯学習の推進と学校教育の充実の向上に努めているところです。

さて、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正（平成20年4月1日施行）されました。

この改正では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくために、教育委員会が所掌する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することが義務付けられました。

湯梨浜町教育委員会は改正の趣旨に即し、平成25年度の事務事業について「教育委員会事務の自己点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

（参考）地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（平成19年6月27日一部改正）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成25年度湯梨浜町教育委員会点検・評価の一覧

湯梨浜町教育委員会では、「平成25年度湯梨浜町教育要覧」にまとめている下記の重点・具体的施策を目指すところ、施策の自己評価、H25成果、H25課題及びH26対応方針の項目別に点検・評価を行いました。

- 1 生涯にわたって自ら学び、その成果を社会で生かし、明日を託す子どもたちに還元する体制づくり
 - (1) 人がつながる学びの機会と場の提供
 - (2) 子育て親育ちの家庭教育の充実
 - (3) 子どもと関わりをもつ地域の仕組みづくり
- 2 ワンランクアップの「知」「徳」「体」の調和のとれた学校教育の推進
 - (1) 進路が保障される学力の定着
 - (2) 美に感動する心と行動化への意欲づけ
 - (3) スポーツの習慣化
 - (4) 幼保一体の幼児教育の推進
 - (5) 特別支援教育の充実
- 3 学校を支える教育環境の整備
 - (1) 中学校統合の推進
 - (2) 15年一貫教育の創造
 - (3) 学校支援ボランティアの拡大と定着
- 4 町民1人1スポーツの推進
 - (1) 生涯スポーツの全国発信
 - (2) 競技スポーツが継続できる環境整備
 - (3) 健康づくりのウォーキング
- 5 歴史的文化遺産の活用と新たな文化の創造
 - (1) 文化財解説ボランティアガイドの育成
 - (2) 文化活動のサークル育成
- 6 湯梨浜町教育振興基本計画の推進に向けた体制づくり
 - (1) 町民との協働による開かれた教育行政の推進
 - (2) 関係機関・団体との連携・協力の推進

【自己点検・評価の流れ】

- ① 每年教育委員会としての重点目標を策定（毎年3月まで）
↓
- ② 事務局(教育総務課、生涯学習・人権推進課)による自己評価
↓
- ③ ②の自己評価を教育委員会に諮り意見を求める
↓
- ④ 教育委員会において、議会に報告する報告書を提出し承認を得る
↓
- ⑤ 報告書を町議会に提出し、報告する（毎年6月定例町議会）
↓
- ⑥ ホームページ等で町民に公表する
↓
- ⑦ ①の中間報告を実施（毎年10月の教育委員会で報告）

※到達度について

目指すところへの到達状況を、今までの取組みにより得られた成果を踏まえて自己評価を行う。

到達度	各施策の目指すところについて
A	目的・目標を達成した
B	ほぼ計画(予定)どおりに実施した
C	取組みは進めたが、成果が出ていない
D	取り組むことができなかった

重点目標の総括

1 生涯にわたって自ら学び、その成果を社会で生かし、明日を託す子どもたちに還元する体制づくり

平成25年度に予定した公民館、図書館及び人権関係の各種事業については、ほぼ計画どおりに実施できた。なかでも住民作品展、芸能大会の参加者数、図書の貸出し冊数は前年度を上回る良好な結果であった。

人権関係事業のうち、解放文化祭については、開催内容を一部変更した結果、参加者数が減少した。地区内の児童生徒数の減少傾向を踏まえ、解放文化祭のあり方についての抜本的な検討が急務となる。

また、大きな懸案となっていた「新しい公民館体制」への移行については、3年にわたる各地区との協議・調整の結果、本年度末をもってようやく実現の運びとなり、中央公民館、泊分館及び羽合分館による3館体制での社会教育推進体制が明確に定まった。今後は、新たな体制のもとで、地域活性化推進員と地域の連携を図りつつ、各種事業の充実を目指したい。

2 ワンランクアップの「知」「徳」「体」の調和のとれた学校教育の推進

学力向上・授業改善を目指した取組みであったが、4月に行われた全国学力・学習状況調査では県及び国の平均点をこえるには至っていない。課題である家庭学習の充実に向けて、町版家庭学習の手引きを作成し配布することができた。特別支援教育については、各校での支援会議等充実させることができた。

3 学校を支える教育環境の整備

「湯梨浜町教育振興基本計画」では町内の2つの中学校を統合し、開校を平成28年4月として目標を設定している。

平成25年度中に保護者説明会及び町長と語る会（住民説明会）を経て、最終的に議会において『湯梨浜町新中学校建設基本構想』に基づいて、新しい場所に新設統合の合意形成が得られた。主要な財源として合併特例債を充てる計画だが、この合併特例債の活用期限が当初より5年間延長になったこともあり、基本構想では平成32年度完成としている。

基本構想で示している平成32年度の完成は最大であり、今後の計画として1年でも早い開校を目指したい。

15年一貫教育の創造に向けては幼児と児童、指導者相互の交流に加え、児童生徒理解の視点に立った研修会を異なる校種間の教職員で合同開催した。子どもを中心に据えた一貫教育の視点から意見交換、協議ができた。具体的には、園児、児童の体験入学、小学校教諭による保育幼稚園参観、Hyper-QU検査等の活用のための小中合同研修会、合同授業研究会等がある。研究協議の場面では、校種を超えて、15年一貫教育の視点で意見を交わすこともできた。

また、平成23年度から始めた「地域で育む学校支援ボランティア事業」では、学校の取組みを支援するボランティア活動とコーディネーターの関わりが定着しつつある。学校によっては、更に学校のニーズに合った活動と人材の掘り起こしが必要なところもある。

4 町民1人1スポーツの推進

生涯スポーツの全国発信としての主要事業であるグラウンド・ゴルフ発祥地大会、ジュニアグラウンド・ゴルフ発祥地大会及び全国ベテラン卓球大会については、例年どおりに開催することができ、参加者にはおおむね好評であった。

有資格者の確保が懸案となっていたベテラン卓球大会については、その確保にめどが立ち、今後の継続開催に向けて展望が開けた。

各種町民大会等についても、募集案内の時期を早めるなどした結果、全体的には、前年と同程度以上の参加が得られたが、地域的な偏りや参加者の固定化などの課題がある。

今後とも、参加者のニーズをくみ取り、参加しやすい大会、参加したい大会となるように努めるとともに、ニュースポーツやウォーキングの普及推進に取り組むなど、スポーツに触れるこことできる場面の拡大に取り組みたい。

5 歴史的文化遺産の活用と新たな文化の創造

平成25年8月に国の重要文化財に指定された「尾崎家住宅」の一般公開を始め、地域の歴史と魅力を再発見するための「ふるさと再発見事業」や県内の史跡・博物館等での現地研修等を積極的に実施した。また、町観光協会などと連携した観光ガイドの養成や文化財解説ボランティアの充実にも取り組んだ。

新たな文化を創造する取組みとしては、新公民館体制への移行に伴う運営方法や事業の精査を行うなど、新年度の円滑な事業運営に向けての協議等を行った。

一方で、「やりたい、学びたい」という町民の要望に応えるため、活動の場を提供するとともに、文化サークル交流会の開催などを通じて、既存団体の活性化や人と

人をつなげるような活動にも取り組み、各種の文化活動の支援を行った。

今後においても、町の歴史遺産や伝統文化を次の世代に守り伝えるとともに、新たな文化の芽を育むような活動に積極的に取り組みたい。

6 湯梨浜町教育振興基本計画の推進に向けた体制づくり

教育振興基本計画の目標実現のため、教育要覧を毎年見直し周知を図るとともに、確実に教育行政の点検評価の実施・公表を行う等体制づくりを進めた。

1. 生涯にわたって自ら学び、その成果を社会で生かし、明日を託す子どもたち
に還元する体制づくり

目指すところ	(1) 人がつながる学びの機会と場の提供	
施 策 の 自 己 評 価	a 利用者のニーズに対応した各種講演会、講座、研修の充実	B
	b 地域の要望にもとづく各課との連携した出前講座の開設	A
	c 公民館活動の学習成果の発表の場の提供	B
	d 利用者がいつでも気持ちよく気軽に来館、利用できるための施設、設備の維持管理及び職員の接遇研修の徹底	C
	e 泊地域における地域振興事業の展開、促進	B
	f 町民の多様な要求に応えるため、時代に即した幅広い分野の図書の購入及び資料収集	B
	g 利用増進を図るため、新着図書情報の発行・広報紙への掲載及びホームページ等による情報発信	A
	h 町民の求める図書の積極的貸出及び学習相談の応対	B
	i 図書館の活動をPRしながら貸出利用を促進するための子育て支援課事業のブックスタートへの協力	A
	j 小さい時から本に親しんでもらうための幼児・児童を対象とした絵本の読み聞かせ会の実施	A
	k 住民の様々な相談に対する生活相談員のきめ細かい対応	A
	l 地区住民の福祉向上と児童の健全育成に資する隣保館・児童館運営	A
	m 地区内の各種団体活動の支援	B
	n 解放文化祭による人権文化の高揚の推進	C
	o 地区児童・生徒等の人権教育を主体的に推進するための学習活動の補助	A
	p 人権教育の推進を図るための各種大会等研修会への派遣	B
	q 小・中学校の人権教育推進のための補助	B
	r 「ゆりはま人権セミナー」の充実	A
	s 人権教育推進員の指導・助言による人権教育推進体制の充実	B
	t 各種団体が主体的に取り組む人権学習・研修の推進	B
u 人権教育研究推進員等の資質向上と活用	B	
v 障がい者の理解を深め、お互いが温かく支えあって生きていくことができる差別のない住みよい町づくりを目指した町民のつどい（人権落語）の開催	A	

	w町民の人権尊重意識の普及・高揚を図ることを目的とした、人権教育推進のための人権教育推進大会の開催	A
H 25 成 果 及び取組状況	<p>aパソコン教室－ワード・エクセルの基礎－（11月～1月） 昼、夜コースそれぞれ10回開催 参加者延べ137名 昼コース1回あたり5.6人、夜コース1回あたり8.1人</p> <p>一般教養講座 「健康講和」 5月 参加者144人 「笑顔とありがとうがあふれるまちへ」 12月 参加者91人 囲碁将棋大会 8月 参加者27名 湯梨浜文化大学（5月～3月開催） 全体教養講座（音楽、健康、社会見学等） 10回開催 参加者延べ1,001人 趣味講座（童謡唱歌・書道・絵手紙・グラウンドゴルフ等15コース）それぞれ7回ずつ開催 参加者延べ1,271人</p> <p>【中央公民館】</p> <p>くらしと経済講演会 6月 参加者22名 ホタルを見にいこう 6月 参加者45名 ポーセラーツ教室 7～9月3回開催 参加者延べ24名 クリーン活動 11月 参加者13名 リラックスヨガ 2月2回開催 参加者延べ26名</p> <p>【羽合分館】</p> <p>心と身体の健康講演会 6月 参加者35名 郷土歴史講座 8月 参加者14名 家庭教育講演会 8月 参加者19名 陶芸教室 11月2回開催 参加者延べ40人 エコな暮らしを片づけから始めませんか 1月 参加者36人 ミニ手話教室 2月 参加者18人 立体ちぎり絵講座 3月 参加者12名</p> <p>【泊分館】</p> <p>夏休み親子おもしろ講座 8月 参加者27名 親子クッキング教室 2月 参加者16名 冬の健康づくり教室 2月2回開催 参加者延べ62名 春の寄せ植え教室 3月 参加者8名</p> <p>b長瀬地区出前講座「防災講演会」6月開催27名（総務課と連携） 花見地区出前講座「防災講習会」6月開催44名（総務課と連携） 舎人地区出前講座「防災講習会」7月開催50名（総務課と連携）</p> <p>c住民作品展（出展者数435人 出展作品数728点）</p>	

	<p>出展者数前年対比 101.4%</p> <p>芸能大会（出演団体数 30 团体 出演者数 201 人）</p> <p>出演者数前年対比 101.5%</p> <p>ロビー展 中央公民館 7回開催</p> <p>羽合分館 2回開催</p> <p>泊分館 9回開催</p> <p>【泊分館】</p> <p>とまり公民館まつり…作品展（日本画グループ・写友会うしお・立体ちぎり絵・陶芸）、音楽発表（海響太鼓）、お茶席（茶道グループ）</p> <p>ロビー展…写友会うしお</p> <p>d 維持管理…常時、館内清掃及び美化活動を実施。苦情はなし。</p> <p>職員の接遇研修は、2回実施（10月、2月）</p> <p>e 泊地区公民館交流GG大会 8月 参加者 75名</p> <p>とまりスパレク祭 9月 参加者 168名</p> <p>とまり公民館まつり 12月 参加者 200名</p> <p>とまりにぎわい事業（ウォーキング 43名・卓球大会 25名・バドミントン大会 42名・ソフトバレーボール大会 36名・カットボール大会 48名・バスクケットボール大会 70名・出前講座 106名）</p> <p>f 利用者のニーズ、各分野のバランスに配慮しながら計画的な購入を行った。</p> <p>g 新着図書情報月2回発行、広報（本の広場）に毎月掲載、ホームページ、TCC等で情報発信を行った。 (H25貸出実績、134,817冊)</p> <p>h 利用者の調べものや探しものに対して積極的に対応し、図書館サービスの充実を図った。</p> <p>i 乳幼児へのブックスタート 6回、1歳児検診時の読み聞かせ 4回を実施し図書館のPRを行った。</p> <p>j おはなし会による絵本の読み聞かせを 15回実施、小学生向けの朗読会を 2回実施した。</p> <p>k 文化会館を拠点とし生活相談を行った。引き続き、浜地区へも毎月 2回（第2・第4水曜日の午後）に出かけて生活相談を実施した。相談会開催のチラシを各戸に配布。また、浜地区へ毎月発行の「手作りタイム」にも相談日を記載して相談会の広報を行った。</p> <p>l 周辺住民も取り込んだ児童館事業の実施を行った。毎月 2回田畠児童館、浜児童館において「Jパラダイス」「手づくりタイム」を実施。田畠児童館の年間参加者は 300名の目標に対して 694名。浜児童館は 100名の目標に対して 103名。</p>
--	--

	<p>m 同和問題の解決に向けた集会、学習会、研修会に参加した。支部活動として田畠地区(5団体)浜地区(1団体)に補助金を支出した。</p> <p>n 実行委員会を開催して、12月7日と8日に解放文化祭を開催した。これまで2日間の催事(発表、バザー)で行ってきたが、本年から、催事を1日に集約したため参加者が減少した。(作品展は2日開催)</p> <p>H25 参加者 576人 H24 参加者 829人 69.5% (対前年比)</p> <p>o 同和地区等の小・中学校児童生徒を対象に、人権学習・仲間づくりを主に毎週学習会を実施。学習会で学んだことを、解放文化祭や閉講式で発表し、差別に負けない力を身につけた。</p> <p>p 各種大会等に参加し、研修・交流を図った。</p> <p>q 小・中学校が行う研修、研究及び学習に対して、5校に補助金を支出。各学校で研修会等を実施した。</p> <p>r 年3回開催し、「同和問題」「身近におこる差別」「外国人の人権問題」をテーマに学習し、認識を深めた。(参加延人数 454人 理解度 90%)</p> <p>s 各団体等に指導・助言を行い、また人権教育推進大会では、「視覚障がいについて」をテーマに講話を行った。</p> <p>t 人権教育推進大会をはじめ、各部会が主体となって研修会等を実施した。</p> <p>u 自ら人権課題を見つけ、研修会を実施した。また、人権教育・啓発事業の評価を行った。</p> <p>v 「障がい」「いじめ」をテーマに講演を実施し、差別の愚かさや相手に対する思いやりの大切さを学んだ。 (参加者 308人 理解度 91%)</p> <p>w 同和問題を中心に、人権問題は全ての人に関わる問題であることを学んだ。(参加者 303人 理解度 95%)</p>
H 25 課 題	<p>a 各館の講座が冬季に偏ってしまった。</p> <p>b 各課と連携した出前講座は、地区公民館職員に対しても講座メリットの説明、紹介する機会が少なかった。</p> <p>c 中央公民館及び泊分館ロビーの有効活用(ロビー展等)と羽合分館での作品展示の検討。</p> <p>d 接遇研修の開催が少なかった。</p> <p>e 今年度から新しい公民館体制の先駆けとして地域活性化推進員を配置し様々な事業に取り組むことができた。参加者が少ない事業もあり、内容や周知の方法等工夫する必要がある。</p> <p>f 限られた予算の中での図書・資料の収集は限界があり、県立図書</p>

	<p>館・他市町の図書館からの相互貸借により対応せざるを得なかつた。(H25 実績 他町等借入 6,148 冊、貸出 1,088 冊)</p> <p>g 引き続き情報発信に努める。</p> <p>h 図書等の相談に即時に対応できるような資料の作成を行っているが、運用にあたって利便性の向上を図る必要がある。</p> <p>i ブックスタート対象者の図書館利用を促進する必要がある。</p> <p>j おはなし会への参加者を増やし図書館利用を促進する必要がある。</p> <p>k 浜地区の相談について、相談日を定着させる</p> <p>l 周辺地域を含めた多くの子供たちが、館事業に参加してもらえるように事業内容を周知する。</p> <p>m 引き続き諸活動の見直しを行っていく。</p> <p>n 催事を 1 日に集約して行った。結果参加者が減少してしまった。</p> <p>o 参加生徒数が減少し、事業計画の見直しが必要である。</p> <p>p 研修の成果を活かす取組みが必要である。</p> <p>q 各学校の特色を活かす事業を展開することが必要である。</p> <p>r 参加者の減少及び固定化。</p> <p>s 各団体に積極的に関わり人権学習を推進していくことが必要である。</p> <p>t 各部会事業の充実を図り、人権教育・啓発事業に積極的に関わることが必要である。</p> <p>u 人権教育研究推進員のより一層の資質向上と有効活用が求められる。</p> <p>v 参加者数が増えるよう、周知方法の工夫や魅力ある事業を展開していくことが必要である。</p> <p>w 参加者数が増えるよう、周知方法の工夫や魅力ある事業を展開していくことが必要である。</p>
H26 対応方針	<p>a 新しい公民館体制となり、公民館運営委員会での意見を事業に反映し、地域活性化推進員と一体となって各種講演会、講座等を年間を通して計画的に開催する。</p> <p>b 出前講座は、地域活性化推進員を通じて地元の要望を把握し開設する。</p> <p>c 利用者の方がいつでも気持ちよく気軽に来館できるよう館内の清掃美化及びより良い接遇に努める。ロビー展も町内外の個人及び団体を勧誘し充実させる。羽合分館での展示事業ができるよう創意工夫する。</p> <p>d 接遇研修を職員事務調整会議の際、積極的に実施する。</p> <p>e 公民館長会で意見を聞きながら内容を検討し、分館だよりや T C</p>

	<p>C等を活用し広く周知する。</p> <p>f 限られた予算の中で効率的に図書・資料を購入するとともに、相互貸借制度を利用しながら町民の要望に応える。</p> <p>g 広報、ホームページ等の情報発信に努めて図書館の利用促進を図る。</p> <p>h 図書等に関する相談に迅速・的確に対応できる体制作りと資料等を充実させる必要がある。</p> <p>i ブックスタート後の取組みとして1歳児検診時の読み聞かせ、図書館主催のおはなし会を行い図書とのふれあいを促進する。</p> <p>j 図書館主催のおはなし会をボランティアグループの協力を得ながら月1回以上実施したい。</p> <p>k 浜地区の相談については、相談日を引き続き広報していく</p> <p>l 子どもの人数も減少しており、いろいろな体験や遊びを通して、一層の仲間づくり等を学べる体験を増やすようにする。 引き続き小学校や、保育所に児童館だよりを配布する。</p> <p>m 諸活動の見直しを行っていく。ただし、人権の醸成に必要な活動が、縮小や廃止にならないように支援していく。</p> <p>n 催事を1日に集約して行ったが、翌年以降の開催日や催事内容等の検討をする必要がある。</p> <p>o 中学校の県外研修を合同で実施する。また生徒数に応じた指導員を配置する。</p> <p>p 参加者が学んだことを発表できる場を設定する。</p> <p>q 補助金を廃止し、必要な事業は、特色ある学校づくり事業の中で実施する。</p> <p>r 声かけ運動の取組みを実施し、日頃、人権学習に参加しない人の参加を増やす。またアンケート結果で学習ニーズの高かったテーマなどの研修を実施する。</p> <p>s 学習プログラム（ワークショップ）を作成し、各団体に参加型学習を推進する。</p> <p>t 各部会における事業の活性化と推進を図る。</p> <p>u 参加型学習のファシリテーターとして積極的に活用を図る。</p> <p>v テレビ番組に出演した知名度の高い講師を選定した。日頃、人権学習に参加しない人の参加を増やす。</p> <p>w 周知方法を充実させるほか、協議会員に呼びかけ運動を依頼し、より多くの町民が参加するよう取組みを進める。</p>
--	---

目指すところ	(2) 子育て・親育ちの家庭教育の充実	
施 策 の 自 己 評 価	a 家庭教育講演会の開催	B
	b 企画課と連携した「ゆりはま家族の日」の実施	A
	c 小・中学校が連携して取り組むための方策を検討する研究主任会の開催	A
	d 全国学力・学習状況調査の分析及び改善策の策定	A
	e 湯梨浜町子育て・親育ち 6 か条の普及・啓発	B
	f 計画訪問や要請訪問による保育所・幼稚園への指導助言	A
H 25 成 果 及び取組状況	<p>a 食育・教育講演会として 6 月に開催。小中は P T A 研修会に位置づけて参加を呼びかけ、幼保からも多くの保護者の参加があった。</p> <p>b 企画課と連携した「ゆりはま家族の日」の実施。 企画課と共に実施できた。各学校に標語作品の募集を行った。</p> <p>c 市町村との協働による「学力向上推進事業」「少人数学級を活かす学びと指導の創造事業」の研究を進める中で、家庭での過ごし方についても研究主任者会で話し合うことができた。</p> <p>d 各校での分析取組、研究主任者会での協議等取り組むことができた。</p> <p>e 保育所や幼稚園の訪問の際に、子育て親育ち 6 か条をもとに指導助言をすることができた。</p> <p>f 各園複数回行うことができた。</p>	
H 25 課 題	<p>aさらなる参加への呼びかけを積極的に行う。</p> <p>b「ゆりはま家族の日」をノーメディアデーと位置づけ、町一体とした取組みとする。</p> <p>c保護者への啓発時期が遅かった（3 月にパンフレット「家庭学習の手引」作成）。</p> <p>d保護者への公表時期が各校そろわず、差ができてしまった。</p> <p>e湯梨浜町子育て・親育ち 6 か条の普及率は 7 割弱である。知っているだけでなく、実際に取り組んでいるのかについても把握し、対応する必要がある。</p> <p>f特になし。</p>	
H26 対応方針	<p>a健康推進課と連携して、講演の意義等を伝え参加者増加を図る。</p> <p>b企画課と協議し H26 から「ゆりはま家族の日」をノーメディアデーと位置づけ、町一体とした取組みとする。</p> <p>c昨年度作成「家庭学習の手引」の活用方法を研究主任会で協議し、実践する。</p>	

	<p>d 9月に分析して取組み案を作成する。10月に各校保護者へ結果を公表をする。</p> <p>e 湯梨浜子育て・親育ち6か条の普及・啓発だけでなく、浸透するような活動に取り組んでいく。各学校でノーメディアデーや家族の日などにあわせて、子育て・親育ち6か条の取組みも行う。</p> <p>f 継続して実施する。</p>
--	--

目指すところ	(3) 子どもと関わりをもつ地域の仕組みづくり	
施 策 の 自 己 評 價	a 親子で生の優れた芸術文化や体験活動等を通して、地域とのふれあいを図るための親子・地域力推進事業の実施 ・人形劇等公演 ・放課後子ども教室推進事業	A
	b 公民館サークル活動及び各地域で活動される文化団体の育成	A
H 25 成 果 及び取組状況	a ・人形劇公演 10月19日実施（委託契約）参加者54人 ・放課後子ども教室：東郷4箇所、泊1箇所、羽合1箇所 計6箇所にて実施 221回 延べ児童参加者 1,472人 ・とまり文化少年団（GG・お寺神社・カヌ一体験・ハロウィン・パステルアート・工場見学・スキ一体験 延べ参加者96名） b ・発表の場の提供 芸能大会・住民作品展・ロビー展・とまり公民館まつり	
H 25 課 題	a 放課後子ども教室の参加児童が年々減少している。 とまり文化少年団においても1事業あたり13~14名であり、参加者を確保することが年々難しくなっている。 b 文化団体の人数の減少や高齢化が進んでいる。	
H26 対応方針	a 児童が少なくなる中で放課後子ども教室への参加児童の確保について検討する。 b 各団体が中心となって講座や教室を開催し、新たな会員を確保する。	

2. ワンランクアップの「知」「徳」「体」の調和のとれた学校教育の推進

目指すところ	(1) 進路が保障される学力の定着	
施 策 の 自 己 評 価	a 全国学力・学習状況調査、標準学力検査の実施と活用	B
	b 放課後学習・サマースクール支援事業の実施	A
	c 授業改善、授業づくりに関する全体研修会の実施	B
	d 県の事業と連携した校内授業研究会の開催	A
	e 研究主任等による学力向上推進のための町教研の担当者会の開催	B
	f エキスパート教員による示範授業と指導助言	B
	g 要請訪問の実施	A
	h 中学校区でのノーテレビ、ノーメディアデーの実施	A
	i 「湯梨浜町子育て親育ち 6 か条」の普及・啓発・浸透	B
	j 学級経営力の向上に視点をあてた「子どもたちの社会性を育む事業」の実施と活用	A
H 25 成 果 及び取組状況	k Hyper-QU 検査（学級生活満足度調査）の活用と校内研修会の実施	A
	l キャリア教育・職場体験学習の実施	A
H 25 課 題	a 実施活用策として、町版「家庭学習の手引」を作成配布した。	
	b 予定通り実施。基礎的内容の定着や学習意欲の向上が見られた。	
	c 小中連携に取り組み、教師の授業力改善を図った。	
	d 県事業を利用し、各校で講師招聘授業研究会を開催した。	
	e 各校研究推進の情報交換等活用できた。町版「家庭学習の手引」を作成することができた。	
	f 町初任研で授業公開・指導助言を行った。	
	g 複数回開催し若手の成長（指導力向上）を確認できた。	
	h 各校、年間複数回取り組んだ。	
	i 学校便りや P T A 総会での説明など、普及に努めた。	
	j 小中合同研修会を 2 回実施した。	
	k 各校で校内研修を実施した。	
	l 両中学校で職場体験学習を中心に 3 年間の進路指導を進めた。	

	<p>ある。</p> <p>e 家庭学習の手引の活用を図る必要がある。</p> <p>f 初任研以外の活用が町としてできなかった。</p> <p>g 特になし</p> <p>h 取組みの振り返りや共有等、連携を図り町全体で共通して取り組む必要がある。</p> <p>i 普及を図るだけでなく、各家庭での実践状況を把握する必要がある。</p> <p>j 集団の質の向上のための活用を一層浸透させる必要がある。</p> <p>k 次の 2 点の周知を一層図る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査結果は「依存するものでなく活用するもの」であること。 ・第一の活用目的は「集団の質の向上のため」であること。 <p>l 系統だった計画に基づき体験学習が実施できる支援を継続する必要がある。</p>
H26 対応方針	<p>a 授業研究会、計画訪問、要請訪問等の機会に、町版「家庭学習の手引」の普及・啓発を進める。</p> <p>b 学校の実態に応じた取組みを支援する。</p> <p>c 小中連携での授業公開等により、教師の授業改善を進める。</p> <p>d 各校研究とそれぞれの授業が結び付くような助言・指導を継続して行う。</p> <p>e 研究主任者会で家庭学習の手引の活用方法を協議する。</p> <p>f 町教研等を活用して、授業公開・授業研究会について連絡する。</p> <p>g 今年度も各校の実態に合わせて実施する。</p> <p>h 町教研等で取組みの情報交換を行う。</p> <p>i 各校ノーメディアデーと連携して、6か条の取組み状況を振り返るシートを用意する。</p> <p>j 事業の実施はない。機会を見つけて活用ポイントを周知する。</p> <p>k 機会を見つけて活用ポイントを周知する。</p> <p>l 前年度の実施に基づく反省からの計画かどうか把握する。</p>

目指すところ	(2) 美に感動する心と行動化への意欲づけ	
施策の自己評価	a 「道徳の時間」の計画訪問時における公開の推進	A
	b 人権教育主任者会による人権教育全体指導計画・年間指導計画の改善	A
	c Hyper-QU 検査結果を分析する校内研修会の開催	A
	d 「総合的な学習の時間」年間指導計画の把握・指導	B
	e 「特色ある学校づくり推進事業補助金」による取組みの推進	A
	f アロハフレンドシップ、ハワイアンフェスティバルの際の交流活動の推進	A
	g 保育所、幼稚園、小・中学校におけるALTの活用	A
	h Hyper-QU 検査結果を分析する校内研修会における不登校児童生徒の対応検討	A
	i 夏休み前に不登校対策委員会の開催	B
	j 保護者支援の会の開催	A
H 25 成果及び取組状況	<p>a 計画訪問、学事訪問で授業公開がなされた。</p> <p>b 主任者会を3回開催し、指導計画の改善、指導方法のあり方を検討した。</p> <p>c 各校で検査の結果活用のための校内研修を行った。</p> <p>d 計画訪問時に年間指導計画の把握を行った。</p> <p>e 各校とも当初計画していた事業が実施できた。</p> <p>f 各校と事前に交渉し、効果的な交流活動になるよう進めた。</p> <p>g 小学校での定期的な活用が定着してきている。</p> <p>h 各校で具体的な手立てを検討し、実施に生かす取組みが行われた。</p> <p>i 対策委員会を開催し、新たな不登校の児童生徒を生まないための取組みの推進を重点化した。小中全体で4名減。</p> <p>j 3回の計画・実施した。</p>	
H 25 課題	<p>a 全教科・全領域の取組みに向け継続的に取り組む必要がある。</p> <p>b 児童生徒の姿で指導内容、指導のあり方を点検する必要がある。</p> <p>c 結果活用について集団の質の向上のためとの視点を一層浸透させる必要がある。</p> <p>d PDCAで改訂されているものか把握する必要がある。</p> <p>e 各校の取り組んでいる事業内容が、本来補助金の目的としている独自に取り組む特色ある学校づくりに資しているのか、各校で改めて検証する必要がある。</p>	

	<p>f 特になし</p> <p>g 保育所・園での窓口職員の変更、丸投げ依頼に対し A L T が対応に苦慮することが見られる。</p> <p>h 担任（特定の教員）の負担大による対応となりがちな状況が見られた。</p> <p>i 引き続きの不登校児童生徒に大きな改善が見られないケースが残る。</p> <p>j 学校だけでの対応が困難なケースについて具体的な動きにつながる支援を行う必要がある。</p>
H26 対応方針	<p>a 教師の姿勢と日々の取組みの積み重ねがポイントと伝えていく。</p> <p>b 担当者間での情報交換（定期）を行い、横の連携を強める。</p> <p>c Hyper-QU 検査結果の活用において以下の 2 点を一層周知する。 ・検査結果は「依存するものでなく活用するもの」であること。 ・第一の活用目的は「集団の質の向上のため」であること。</p> <p>e 各校の取組みがこれまで以上に独自性を強め、前例踏襲でなく新たなものとなるよう、また取組みの進捗状況や成果を年度中途で検証する。</p> <p>f 今後も関係各課との連携を深め運営に協力する。</p> <p>g 交流のねらいの明確化を図り、見通しを持った活用を促す。</p> <p>h 対応の役割分担を明確にしていく支援会議のあり方を促す。</p> <p>i 今後も新たな不登校の児童生徒を生まないための取組みを推進するため、職員集団による迅速な対応の大切さを浸透させる。</p> <p>j 学校だけでの対応が困難なケースは、要保護児童対策地域協議会に協力を求めチームで学校支援を進める。</p>

目指すところ	(3) スポーツの習慣化	
施 策 の 自 己 評 価	a スポーツ少年団常任委員会の参加	A
	b 部活動の大会等の参観	A
	c 各園の実態と小・中学校の体力の課題を踏まえた保育・教育課程の改善	B
	d 新体力テストの結果分析と改善策の検討	C
	e 運動部活動推進事業の活用	A
	f 食育・教育講演会の開催	A
	g 家庭啓発リーフレットの普及・推進	B
H 25 成 果 及び取組状況	a 4月の総会等参加できた。 b 6月、10月の大会の様子を参観した。 c 各園・各校の課題に合わせた保育実践や業間運動が行われた。 d 各学校で分析し、課題について取り組むことができた。 e 申請済の全部で6月以上の実績があった。 f P T Aの研修会に位置づけて開催できた。 g 研究主任者会が中心となり作成することができた。	
H 25 課 題	a 特になし b 現状維持 c 幼小中連携を意識した取組みの必要がある。 d 結果分析と取組みを町全体で行うことができなかつた。 e 外部指導者との連携のあり様について確認する必要がある。 f さらなる参加者増加を図る必要がある。 g 家庭啓発リーフレットの普及・推進に向け、一層の浸透を図る必要がある。	
H26 対応方針	a 継続して実施する。 b 継続して実施する。 c 幼小中の課題を分析し、連携した取組みを行う。 d 県体育保健課からデータの分析を行う。町全体としての取組み案を作成する。 e 実態把握と必要な支援を行う。 f 講演会の意義について周知を図り、P T Aを通しての呼びかけを行う。また、教職員の参加についても同様に行う。 g 各校の取組みを把握し、研究主任者会等で活用について協議する。	

目指すところ	(4) 幼保一体の幼児教育の推進	
施 策 の 自 己 評・価	a 職員研修会の開催（子育て支援課共催）	A
	b 所長・園長会での研究協議	B
	c 訪問指導を実施	A
	d 湯梨浜町子育て・親育ち6か条の普及・啓発	A
H 25 成 果 及び取組状況	a 小学校へつながる学びの基礎づくりが意識されるようになった。 b 園長所長会での指導・助言等により、各園で工夫した遊びの工夫 がみられるようになった。 c 町教委計画訪問、県教委要請訪問、町教委要請訪問を各園複数回 行った。 d 保護者会、研修会等で年間を通して普及に努めた。	
H 25 課 題	a 職員研修に出たいが、なかなか出られない現状がある。 b 園によっては取組みに差がある。 c 特になし d 家庭生活の大切さをうまく保護者に伝えることができない。	
H26 対応方針	a 夕方以降の開催など、時間帯を工夫する b 県作成保幼小連携カリキュラムの活用を図る。 c 繼続して実施する。 d 保育参観日等を利用して普及を図る。	

目指すところ	(5) 特別支援教育の充実	
施 策 の 自 己 評 價	a 授業研究会の開催・ケース支援会議の開催	A
	b 支援のあり方についての校内研修会の実施	B
	c 保護者のニーズを反映した校内就学指導委員会や個別の支援会議の開催	A
	d 進学する予定の学校見学や体験入学の実施	A
	e 教職員の連絡会や交流会の実施	B
	f 進路を見据えた教育課程、教育計画の実施	A
	g 進学する予定の学校見学や職場見学の実施	A
	h 保護者への情報提供や児童生徒への進路指導の実施	A
H 25 成 果 及び取組状況	<p>a 1学期に支援学級の授業研究会を行い、年間通してケース会議を開催することができた。</p> <p>b センター研修生の報告会や校内研修会などで、教員の専門性向上を目指した。</p> <p>c 保護者の理解を得ながら、年間を通じて個別の支援会議を開催できた。</p> <p>d 進学先・保護者と連携を取りながら取り組んだ。</p> <p>e 教職員が関わりながら小中連携の取組みができた。</p> <p>f 実施できた。</p> <p>g 各園・学校と連携を取りながら、適切に実施できた。</p> <p>h 各園・学校・保護者と連携し進路指導を進めた。</p>	
H 25 課 題	<p>a 移行支援会議は、時期が重ってしまう。</p> <p>b 支援を必要としている児童への対応などについて、教職員の意識に差がある。</p> <p>c 保護者の意向を尊重できたが、専門機関の意見をしっかりと検討する必要がある。</p> <p>d 内容についてしっかりと事前打ち合わせを行う必要がある。</p> <p>e 保小の職員間の連携をさらに深めていくことが必要である。</p> <p>f 特になし</p> <p>g 特になし</p> <p>h 特になし</p>	
H26 対応方針	<p>a 支援会議の積み重ねや、保育園からの引き継ぎを校内体制として行っていく。</p> <p>b 文部科学省事業「発達理解推進拠点事業」を活用し、町全体で職員の専門性向上を図る。</p>	

	<p>c 年中からの時間をかけて就学指導を行っていく。</p> <p>d 複数回の実施をする。</p> <p>e 引継ぎ時だけでなく、普段から授業研究会に参加するなどの取組みを行う。</p> <p>f 継続して実施する。</p> <p>g 継続して実施する。</p> <p>h 継続して実施する。</p>
--	--

3. 学校を支える教育環境の整備

目指すところ	(1) 中学校統合の推進	
施 策 の 自 己 評 價	町民に中学校統合についての町の考え方を説明し理解を得た後、学校建設における設計前の基本計画を本年度中に策定する	B
H 25 成 果 及び取組状況	幼保小中保護者との意見交換会及び町長と語る会において町の方針を説明。年明けに開催した町長と語る会では建設基本構想の内容を説明し中学校統合について住民の理解を概ね得ることができた。	
H 25 課 題	学校統合による生徒への影響、保護者間の連携など学校建設以外のソフト面における意見要望等について精査し、学校統合までに対応する必要がある。	
H26 対応方針	詳細な建設場所を決定し議会及び地元集落、所有者へ理解を得ること。その後に用地買収から基本設計、諸手続などを完了させ造成工事の発注を実施する。	

目指すところ	(2) 15年一貫教育の創造	
施 策 の 自 己 評 価	a 幼児と児童の交流活動の推進とカリキュラムの共有化、指導者相互の交流	A
	b 県の事業と連携した校内授業研究会と小中連携の充実	A
	c 指導主事要請訪問での指導助言の実施	A
	d 保幼小・小中それぞれの教職員同士の訪問、参観	A
	e 子ども同士の交流の場の設定	A
	f Hyper-QU 検査等の活用による児童生徒理解の技能を高める研修の実施	A
	g 児童生徒理解のためのアンケートや教育相談の実施	A
	h 食育教育講演会（湯梨浜町・湯梨浜町教育委員会・湯梨浜町PTA連合会主催）の開催	A
	i 各機関での子育て講演会の実施	A
H 25 成 果 及び取組状況	<p>a 園児の小学校体験入学、小学校教諭の保育幼稚園参観を行い情報交換もできた。</p> <p>b 東郷中校区・北渥中校区とも県の事業を受け、講師招聘授業研究会を行うことによって教師の指導力向上が図れた。</p> <p>c 県教委の要請訪問同行及び町教委主催要請訪問を行い、教師の指導力向上や学級経営の相談にのることができた。</p> <p>d 授業研究会では、授業参観だけでなく、研究協議では違う立場からの意見を伝え合うことができた。</p> <p>e 保育園幼稚園児の体験入学を行うことができた。</p> <p>f 各校並びに町教委主催で研修を実施した。</p> <p>g 各校にて定期的にアンケートを行い児童生徒の理解に生かした。</p> <p>h 6月26日に食育教育講演会を開催した。</p> <p>i 各園各校、参観日等を利用して子育て講演会を開催した。</p>	
H 25 課 題	<p>a 交流の機会を増やして、相互理解を図る必要がある。</p> <p>b 特になし</p> <p>c 行事等が重なり、計画通りいかないことがあった。</p> <p>d 特になし</p> <p>e 特になし</p> <p>f 各校の実態に応じた研修の継続実施が必要である。</p> <p>g 各校作成済の「いじめ対策基本方針」に基づいた適切な運用が図られる。</p> <p>h 特になし</p>	

	i 特になし
H26 対応方針	<p>a 県作成保幼小連携カリキュラムを活用し、指導法の改善を図る。</p> <p>b 今年度も3つの事業をそれぞれの校区で取り組んでいく。講演会等の参加も町全体に広げる。</p> <p>c 日程調整を早めに行う。</p> <p>d 本年度も継続して行う。</p> <p>e 本年度も継続して行う。</p> <p>f 全校で2回の調査を予算化したので、新たな不登校の未然防止策としての積極的な活用となるよう町指導主事も関わる。</p> <p>g 継続して実施する。</p> <p>h 本年度も継続して行う。</p> <p>i 本年度も継続して行う。</p>

目指すところ	(3) 学校支援ボランティアの拡大と定着	
施 策 の 自 己 評 価	a学校支援コーディネーター連絡協議会の開催	A
	bボランティア活動補助金の有効活用の推進	B
	cボランティア登録の運営・推進	A
H 25 成 果 及び取組状況	a年2回開催し、コーディネーターと教頭との意思疎通を図った。 b一律でなく、各校の実態に合った補助金の活用となってきた。 c登録者数は最終的に計132名となり、前年度並であった。	
H 25 課 題	a学校のニーズに合った人材確保とそのための環境整備について再確認する必要がある。 b活動補助金の活用例を精査する必要がある。 c特になし	
H26 対応方針	a5～6月、1～2月頃に開催し、企画・運営を行う。 b連絡協議会を利用し、各校教頭に周知徹底を図る。 c継続して実施する。	

4. 町民1人1スポーツの推進

目指すところ	(1) 生涯スポーツの全国発信	
施 策 の 自 己 評 價	a 第25回グラウンド・ゴルフ発祥地大会の開催	A
	b 世代間交流グラウンド・ゴルフ大会（予選大会）への参加	A
	c ジュニアグラウンド・ゴルフ発祥地大会への参加	A
	d 第35回全国ベテラン卓球大会の開催	A
H 25 成 果 及び取組状況	<p>a 6月8・9日に開催。26都府県、333チームの応募をいただき、抽選により192チーム、768名（定数）の参加をいただき開催した。</p> <p>b 町内の小学生およびスポーツ少年団など小学生の活動するスポーツ団体へ参加の呼びかけを行い、全参加者265名（子ども89名、大人176名）のうち町内から小学生18名、大人6名参加した。 (事業主体：潮風の丘とまり)</p> <p>c 町内の小学生およびスポーツ少年団など小学生の活動するスポーツ団体へ参加の呼びかけを行い、全参加者105名中、町内から34名参加した。 (事業主体：企画課)</p> <p>d 9月7・8日に開催。15都府県、270名（団体46チーム、個人戦171名）の参加をいただき開催した。</p>	
H 25 課 題	<p>a 特になし</p> <p>b 特になし</p> <p>c 特になし</p> <p>d 町内在住の上級審判員資格を持った方が平成25年度で資格が失効し、次回以降全国大会を開催するにあたり上級審判員資格を競技責任者として配置する必要があるため、資格者の確保が課題となった。 また、近年参加者が下降傾向にある中で、参加者が増えるような取組みが必要。</p>	
H 26 対応方針	<p>a 継続して開催していく。</p> <p>b 継続して参加を呼び掛けていく。</p> <p>c 継続して参加を呼び掛けていく</p> <p>d 中部地区で唯一資格を所有する倉吉市在住の方に審判長を引き受けいただき、継続して開催していくことが可能となった。 また、魅力ある大会作りを行うため、試合方法を改定し、参加者</p>	

	全員が一日楽しめるように試合数の増加を行うほか、招待選手を招くことで参加者の増加に取り組む。
--	--

目指すところ	(2) 競技スポーツが継続できる環境整備	
施 策 の 自 己 評 価	a スポーツ推進委員による町民の体力づくり・ニュースポーツ指導等の推進	A
	b 各種競技大会の開催や功労者等の表彰等を実施する町体育協会への補助	A
	c スポーツ少年団の育成支援	A
	d 利用調整会の定期的な開催	A
	e スポーツ施設の管理	A
	f 下記大会等の継続・充実 • スポーツ少年団結団式 • 町体育協会理事会（総会） • 町軟式野球ナイターリーグ大会 • 町民ソフトボール大会 • グラウンド・ゴルフ発祥地大会 • ハワイトライアスロン in 湯梨浜 • 東伯郡民体育大会結団式 • 東伯郡民体育大会 • ナイトハイク • 東郷湖ドラゴンカヌー大会 • 県民スポ・レク祭 夏季・秋季・冬季大会 • 全国ベテラン卓球大会 • 中部地区駅伝競走大会 • 町駅伝競走大会 • 町民グラウンド・ゴルフ大会 • 町民ゲートボール大会 • 町民バレーボール大会 • 新春みんなでかけろう会 • 町民バスケットボール大会 • 町民卓球大会 • 町体育協会表彰式 • 町民バドミントン大会	A
H 25 成 果 及び取組状況	a 公民館・他団体活動へのスポーツ指導を 8 回実施。 スポーツ推進委員の資質向上・意識改革を図るため独自に実技研修を 5 回実施し、10 月からは月 1 回ニュースポーツ（バウンスボール）教室を開催し、スポーツの推進に取り組んだ。 また、町民大会・イベントに合わせ大会場の一部を利用しニュ	

	<p>ースポーツ体験コーナーを設けてスポーツの推進を図った。</p> <p>b 各種町民大会を計画通り実施し、2月16日には年間の成績優秀者を対象に体育協会の功労者表彰を行った。</p> <p>c 施設使用料の免除、団活動への補助金交付等を行い活動しやすい環境整備を継続して図っている。</p> <p>d 例年定期的に活動している団体が多く新規に活動する団体がないため、今年度も年1回2月末にH26年度の利用調整会を実施し有効な利用調整を図った。</p> <p>e 定期的な維持管理（清掃業務等）を行い、必要に応じて施設・器具などの修繕を行い環境整備を図った。</p> <p>f 計画通りに実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団結団式 4月13日開催 18団体 300名参加 ・町体育協会理事会（総会） ・町軟式野球ナイターリーグ大会 5月7日開幕～10月18日 8チーム参加 ・町民ソフトボール大会 5月13日開催 23チーム参加 ・グラウンド・ゴルフ発祥地大会 6月9・10日開催 27府県 192チーム 768名参加 ・ハワイトライアスロン in 湯梨浜 6月17日開催（トライアスロン実行委員会主催） ・東伯郡民体育大会結団式 7月6日開催 約400名参加 ・東伯郡体育大会 7月13日～21日 約1,000人参加 ・ナイトハイク 8月17日開催 126名参加 ・東郷湖ドラゴンカヌー大会 8月25日開催（ドラゴンカヌー大会実行委員会主催） ・県民spo・レク祭 夏季・秋季・冬季大会 約300名参加 ・全国ベテラン卓球大会 9月7・8日開催 15都府県 270名参加 ・中部地区駅伝競走大会 9月15日開催 1チーム 8名参加 ・町駅伝競走大会 11月17日開催 40チーム 240名参加 ・町民グラウンド・ゴルフ大会 11月4日開催 81チーム 316名参加 ・町民ゲートボール大会 11月10日開催 5チーム 30名参加 ・町民バレーボール大会 11月25日開催 21チーム 189名参加 ・新春みんなでかけろう大会 1月3日開催 107名参加 ・町民バスケットボール大会 1月12日開催 15チーム 120名 ・町民卓球大会 12月22日開催 20チーム 120名参加
--	--

	<ul style="list-style-type: none">・町体育協会表彰式 2月16日開催 個人101名、団体31団体を表彰・町民バドミントン 3月16日開催 29チーム 174名参加
H 25 課題	特になし
H26 対応方針	継続して開催していく。

目指すところ	(3) 健康づくりのウォーキング	
施 策 の 自 己 評 價	a ナイトハイクの開催	A
	b ナイトハイクを利用した教室の開催	A
	c 広報活動の企画	A
	d グラウンド・ゴルフ発祥地大会の充実	A
	e 町民グラウンド・ゴルフ大会の充実	A
H 25 成 果 及び取組状況	<p>a ナイトハイクにおいて昨年度の参加者を上回ることができた。 H24 89人 ⇒ H25 126人</p> <p>b 健康推進課と共に開催しウォーキング教室を実施できた。</p> <p>c ホームページ等活用により参加者の増加が図れた。</p> <p>d 6月に開催 47府県 768名の参加があった。</p> <p>e 11月に開催 81チーム 316名の参加があった。</p>	
H 25 課 題	<p>a 各地区で参加しやすいコースの検討が必要。</p> <p>b 各地区で参加しやすいコースの検討が必要。</p> <p>c 特になし</p> <p>d 特になし</p> <p>e 特になし</p>	
H26 対応方針	<p>a 部員の意見を聞きながらコースを検討し、参加者の安全を考慮したコースを決定したい。</p> <p>b 部員の意見を聞きながらコースを検討し、参加者の安全を考慮したコースを決定したい。</p> <p>c 継続して町報、ホームページ、呼びかけを行い参加者の増加に努める。</p> <p>d 継続開催</p> <p>e 継続開催</p>	

5. 歴史的文化遺産の活用と新たな文化の創造

目指すところ	(1) 文化財解説ボランティアガイドの育成	
施 策 の 自 己 評 価	a 文化財見学会事業による史跡・博物館等での現地研修実施	A
	b 地域の歴史を再認識するためのふるさと再発見事業の活用	A
	c 町観光協会主催のガイド養成講座に協力	A
	d 文化財解説ボランティアの配置・充実	A
H 25 成 果 及び取組状況	a 県立博物館企画展、池田家墓所及び泊歴史民俗資料館実地研修 12月24日 参加者 23人 b 「原を訪ねる」7月3日 参加者 18人 「羽衣伝説の地を訪ねる」7月23日 参加者 11人 「尾崎家住宅一般公開及び講演会」 6月16日 参加者 150人、10月14日 参加者 103人 c 観光ガイド養成講座 10/24. 11/8. 11/19. 11/29. 12/10. 12/19 ガイド登録 17人 d 文化財解説ボランティア 8人 文化財保護委員 6人、その他各地区歴史研究団体 2人	
H 25 課 題	a 現地ガイドを依頼し、観光ガイド研修も兼ねた事業とし、観光ガイド員の資質向上と新規ガイド員の登録につなげていく。 b ガイドができる人がいないため訪れていない地区がある。 c ガイド未経験者が多数であり、ガイド技術の向上と経験を積むことが必要である。 d 解説ボランティアリスト（氏名及び解説内容等詳細）の作成が必要である。	
H 26 対応方針	a 現地ガイド又は講演会等を組み込み、見学だけの事業とならないように実施する。 b 未訪問地区の訪問を積極的に行う。 c 観光ガイドの資質向上のため、現地見学会事業やふるさと再発見事業への参加を呼びかける。 d 解説ボランティアリストの作成を行う。	

目指すところ	(2) 文化活動のサークル育成	
施 策 の 自 己 評 価	a 公民館事業計画・推進並びに新たな生涯学習推進体制のあり方について意見を求める公民館運営審議会の開催	A
	b 新しい公民館体制移行に向けて、公民館長、主事による会議（分館会議）により事業精査を実施	B
	c 事業精査により地区公民館委託事業の適正執行を図り、連携強化のもと各種講座、教室の充実	B
	d 公民館職員研修会による職員の資質向上	C
	e 自発的に趣味や技芸を習得し、交流と親睦を図るため湯梨浜町文化団体協議会加盟団体の連携強化、交流を通した情報発信の強化	A
	f 町内サークル等の学習成果の発表機会を提供し、更なる活動の充実と交流促進、底辺の拡大	A
H 25 成 果 及び取組状況	<p>a 公民館運営審議会を開催し、新しい公民館体制について経過報告等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月 新しい公民館体制について ・ 3月 湯梨浜町の新しい公民館体制及び平成26年度事業内容について <p>b 公民館連絡協議会（会長・主事会）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月 地区公民館活動推進委託料配分協議 ・ 10月 湯梨浜町の新しい公民館体制のあり方協議 ・ 12月 新しい公民館（社会教育推進）体制に向けて協議 <p>c 地区公民館委託事業の精査を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東郷地域 ①青少年教育「ほたる観賞の夕べ」 ②成人教育「各地区出前講座」 総務課防災係と連携で実施 ③女性教育 「歴史めぐりとノルディックウォーキング」 <p>d 公民館職員研修会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県公民館研究集会 2月 参加者6名 ・ 郡公連主事部会研修会 年4回 参加者延べ28人 <p>e 町文化団体協議会関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加盟団体数 59団体 ・ 町文化団体協議会加盟団体への活動支援金補助（7月） ・ 加盟団体交流事業（講演会10月、絵画鑑賞会11月、遺跡めぐり2月） 	

	<p>・協議会だよりの発行（3月）</p> <p>f 住民作品展…10月30日～11月4日（羽合分館・アロハホール） 出展者435人 出展作品728点 湯梨浜芸能大会…11月17日（アロハホール） 出演団体30団体 出演者201人</p> <p>ロビー展 中央公民館 7回開催 羽合分館 2回開催 泊分館 9回開催</p> <p>とまり公民館まつり…作品展（日本画グループ・写友会うしお・立体ちぎり絵・陶芸）、音楽発表（海響太鼓）、お茶席（茶道グループ） ロビー展…写友会うしお</p>
H 25 課題	<p>a課題なし</p> <p>b新しい公民館制度に向けて分館会議を実施し、事業精査を行ったが、思うような事業の精査ができなかった。</p> <p>c事業精査として、中央公民館と地区公民館長、主事の連携強化。</p> <p>d地区公民館長、主事の公民館職員研修会への積極的な参加。</p> <p>e町文化団体協議会の自主、独立運営への移行。</p> <p>f作品展や芸能大会の出展・出演者は充実しているが、観客数の増へつなげる方策が必要。</p>
H26 対応方針	<p>a特になし</p> <p>b3公民館職員と地域活性化推進員で事業精査を実施し、地域の要望に基づく各課との連携した出前講座等実施。</p> <p>c3公民館がそれぞれの地域の利用者のニーズに対応した各種講座、教室の充実</p> <p>d県及び県公連や郡公連の実施する研修会への積極的な参加。</p> <p>e町内各種文化団体の交流の場の増設や積極的な情報発信をするとともに、町文化団体協議会の活動強化と自主、独立運営に向けて支援をする。</p> <p>f積極的に情報発信、PRに努め観客数の増を図る。 各地域で独自に活動されているサークル、団体の情報収集を行い交流促進、底辺の拡大に資する。</p>

6. 湯梨浜町教育振興基本計画の推進に向けた体制づくり

目指すところ	(1) 町民との協働による開かれた教育行政の推進	
施 策 の 自 己 評 価	a 町ホームページや広報紙を活用した教育行政の紹介	B
	b 教育行政の点検及び評価の実施・公表	A
	c 教育委員会定例会、校長会等への適切な報告・提案	A
	d 教育要覧の作成と周知	A
H 25 成 果 及び取組状況	a 町ホームページに掲載している。 b 6月の定例議会で報告済。10月には中間評価も実施した。 c 必要に応じ学校現場での出来事や懸案事項について報告した。 d 記載内容を検討し、点検及び評価をすすめた。	
H 25 課 題	a 特になし b 特になし c 特になし d 特になし	
H26 対応方針	a 継続実施 b 今年度の取組みを進め、PDCAサイクルを明確にする。 c 懸案事項を設定し、定期的に報告する。 d 5月中に配布を完了する。毎年策定し、基本計画の目標実現に努める。	

目指すところ	(2) 関係機関・団体との連携・協力の推進	
施 策 の 自 己 評 価	a 国・県事業の積極的な活用	B
	b 中部市町指導主事会の実施と連携充実	A
	c 東郷小学校の研究推進における鳥取大学教授の講師招聘	/
H 25 成 果 及び取組状況	a ほぼ計画どおり事業を執行した。 b 懸案事項について情報交換する等連携を図った。 c 予定していた講師の転勤により実施が不可となった。	
H 25 課 題	a 引き続き各校の学力向上、不登校減少に向け具体的な手立てを行う必要がある。 b 特になし。 c なし。	
H26 対応方針	a 核となる教員への働きかけ、支援を継続実施する。 b 継続実施し連携を深める。 c なし。	

教育委員会議及び教育委員の活動

湯梨浜町教育委員会委員

(H26. 4. 1 現在)

職名	氏名	就任年月日	任期	保護者
委員長	前田 三郎	H24. 12. 25	H28. 12. 24	
同職務代理者	熊坂かつ枝	H23. 12. 25	H27. 12. 24	
委員	中川 裕章	H22. 12. 25	H26. 12. 24	
委員	小林 孝拓	H25. 12. 25	H29. 12. 25	○
教育長	土海 孝治	H24. 12. 25	H28. 12. 24	

○委員の異動

平成25年12月24日に任期満了となった櫻井委員の後任に、同年12月25日に小林委員が任命されました。

教育委員会議・教育委員の活動実績等について

平成25年度につきましては、教育委員会議は毎月の定例会の中で教育委員会規則等の一部改正、要保護・準要保護児童生徒の認定、学校評議員などの委嘱のほか9月、12月、1月及び3月に計4回の臨時会を開催しました。このうち1月の臨時会では、湯梨浜町新中学校建設基本構想（案）について協議するなど、適宜に中学校の統廃合に関する協議を実施した。その結果、長年にわたり検討・協議してきた、中学校統合に向けての住民の合意形成と建設候補地を選定することができた。

《1》 教育委員会議の平成25年度開催実績

教育委員会議は、毎月1回定例会を開催するほか、必要に応じて臨時会を開催しております。

教育委員会の開催状況（平成25年4月～平成26年3月）

年月日	会議名	議案番号	議案件名等
25. 4. 25	第5回定例会	27	専決処分の承認を求めるについて（教育委員会職員の異動）
		28	専決処分の承認を求めるについて（湯梨浜町立小学校医及び中学校医の委嘱）
		29	平成25年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について
			教育長の報告4件、協議事項1件、報告連絡事項4件、その他

25. 5. 24	第 6 回定例会	30	専決処分の承認を求ることについて（学校評議員の委嘱）
		31	平成 25 年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について
			教育長の報告 4 件、協議事項 1 件、報告連絡事項 7 件、その他
25. 6. 26	第 7 回定例会	32	専決処分の承認を求ることについて（平成 25 年度湯梨浜町一般会計補正予算（第 1 号））
		33	湯梨浜町教育委員会事務局組織等に関する規則の一部を改正する規則について
		34	湯梨浜町スポーツ推進委員の委嘱について
			教育長の報告 2 件、報告連絡事項 2 件、その他
25. 7. 26	第 8 回定例会	35	専決処分の承認を求ることについて（湯梨浜町招致外国青年就業規則の一部を改正する規則）
		36	外国語指導助手の任命について
			教育長の報告 3 件、報告連絡事項 7 件、その他
25. 8. 27	第 9 回定例会		教育長の報告 2 件、協議事項 1 件、報告連絡事項 9 件、その他
25. 9. 19	第 10 回臨時会		協議事項 1 件、その他
25. 9. 26	第 11 回定例会	37	専決処分の承認を求ることについて（平成 25 年度湯梨浜町一般会計補正予算（第 2 号））
		38	平成 25 年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について
			教育長の報告 2 件、報告連絡事項 9 件、その他
25. 10. 24	第 12 回定例会		教育長の報告 3 件、協議事項 1 件、報告連絡事項 12 件、その他
25. 11. 28	第 13 回定例会	39	湯梨浜町指定文化財の指定について
		40	平成 25 年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について
			教育長の報告 2 件、報告連絡事項 13 件、その他
25. 12. 5	第 14 回臨時会		協議事項 2 件、その他
25. 12. 25	第 15 回定例会	41	湯梨浜町教育委員会委員長職務代理者の指定について
		42	専決処分の承認を求ることについて（平成 25 年度湯梨浜町一般会計補正予算（第 4 号））
		43	専決処分の承認を求ることについて（湯梨浜町公民館の設置及び管理に関する条例等の一部を改正する条例）
			教育長の報告 3 件、協議事項 1 件、報告連絡事項 9 件、その他
26. 1. 20	第 1 回臨時会		協議事項 1 件、その他
26. 1. 24	第 2 回定例会	1	湯梨浜町コミュニティー施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について
		2	湯梨浜町立青少年の家の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について
		3	小学校及び中学校体育館並びに社会体育施設等の照明灯交換基準要綱

			の一部を改正する訓令について
			教育長の報告 3 件、報告連絡事項 9 件、その他
26. 2. 25	第 3 回定例会	4	平成 25 年度湯梨浜町一般会計補正予算（第 5 号）について
		5	平成 26 年度湯梨浜町一般会計当初予算について
		6	湯梨浜町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
		7	湯梨浜町教育相談員の設置に関する要綱の一部を改正する訓令について
		8	教育財産の用途廃止について
		9	平成 25 年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について
		10	平成 26 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について
			教育長の報告 1 件、報告連絡事項 5 件、その他
26. 3. 11	第 4 回臨時会	11	平成 26 年度県費負担教職員の人事内申について
			その他
26. 3. 25	第 5 回定例会	12	専決処分の承認を求めることについて（湯梨浜町立児童館の管理運営に関する規則の一部を改正する規則）
		13	湯梨浜町公民館連絡協議会規約を廃止する訓令について
		14	教育委員会及びその他の教育機関の職員の任免等について
		15	湯梨浜町人権教育推進員の任命について
		16	湯梨浜町人権教育研究推進員の委嘱について
		17	湯梨浜町地域活性化推進員の任命について
		18	湯梨浜町各地域公民館運営委員会委員の委嘱について
		19	湯梨浜町給食費単価の決定について
		20	平成 26 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について
			教育長の報告 8 件、報告連絡事項 6 件、その他

※定例会、臨時会を含めて 16 回、37 議案を審議決定した。

《2》教育委員の活動実績

教育委員の活動としては、町内小・中学校への計画訪問（学校訪問）、各種社会教育事業への参加、県内並びに中部地区各教育委員会で合同の研修会も行っております。

《教育委員の活動状況（平成25年4月～平成26年3月）》

計画訪問（学校訪問）

年月日	学校名等	協議内容等
25. 6. 7	泊小学校B	1 授業参観（2・3校時） 2 校長説明・委員質疑
	東郷小学校A	1 校長説明・委員質疑 2 授業参観（5・6校時） 3 意見交換会
25. 6. 11	東郷中学校B	1 授業参観（2・3校時） 2 校長説明・委員質疑
25. 6. 20	羽合小学校A	1 校長説明・委員質疑 2 授業参観（5・6校時） 3 意見交換会
25. 6. 25	北溟中学校B	1 校長説明・委員質疑 2 授業参観（2・3校時）
25. 10. 23	東郷小学校B	1 校長説明・委員質疑 2 授業参観（3・4校時）
	北溟中学校A	1 校長説明・委員質疑 2 授業参観（5・6校時） 3 意見交換会
25. 11. 7	羽合小学校B	1 授業参観（2校時） 2 校長説明・委員質疑 3 授業参観（3校時）
25. 11. 8	東郷中学校A	1 校長説明・委員質疑 2 授業参観（5・6校時） 3 意見交換会
25. 11. 11	泊小学校A	1 校長説明・委員質疑 2 授業参観（5・6校時） 3 意見交換会

その他主な教育委員活動

年月日	場所等	研修内容等
25. 4. 2	役場講堂	転入教職員着任式

25. 4. 9	各小中学校	入学式
25. 5. 27	北栄町	平成 25 年度東伯地区教育委員会連絡協議会総会並びに研究大会
25. 6. 8~9	潮風の丘とまり	第 25 回「カント・ゴルフ発祥地大会開会式(委員長が実行委員)
25. 6. 23	ハワイアロハホール	湯梨浜町民の集い
25. 7. 5	倉吉市	平成 25 年度鳥取県市町村教育委員会研究協議会定期総会並びに研究大会
25. 7. 6	羽合小学校	第 59 回東伯郡民体育大会湯梨浜町選手団結団式
25. 7. 14	北栄町ほか郡内	第 59 回東伯郡民体育大会開会式、各競技会場激励廻り
25. 8. 5	倉吉市	平成 25 年度市町村(学校組合)教育委員会教育委員研修会
25. 8. 7~8	米子市他	第 38 回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会
25. 9. 7~8	あやめ池スポーツセンター	第 35 回全国ベテラン卓球ゆりはま東郷大会
25. 10. 20	ハワイアロハホール	湯梨浜町人権教育推進大会
26. 1. 3	ハワイアロハホール	湯梨浜町成人式
26. 3. 11	各中学校	卒業式
26. 3. 19	各小学校	卒業式